

資料3 がん遺伝子パネル検査で使用する組織検体について

2024年1月現在、当院で取り扱いのある「がん遺伝子パネル検査」は「FoundationOne CDx」「NCC オンコパネル」「GenMine TOP」「FoundationOne Liquid CDx」「Guardant360」の5種類です。

がん遺伝子パネル検査では、十分な組織検体量が必要となります。組織検体量が少なく一定の基準を満たさない場合は、出検までに時間を要します。以下の内容にご留意いただき、組織検体の準備にご協力ください。

<ご提出いただくもの>

- HE 染色スライド標本×2枚 (返却いたしません)

- FFPE 未染色スライド (5μm厚) ×16枚 (生検検体の場合は 20枚)
(返却いたしません)
 - ★1枚のスライドに複数切片の提出は不可です

- 病理診断報告書

<検体準備についてのお願い>

- ・ご施設の病理診断医とご相談の上、検体の準備をお願いいたします。
- ・ご提出いただく標本の選択および作成にあたっては日本病理学会刊「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規定」(診療用規定)をご参照ください。プレアナリシス段階でのプロセスが最適でない標本や採取時期が3年以上前の標本等も対応いたしますが、コンタミネーションを含む標本、硬組織を酸脱灰した標本はお断りしております。
- ・マクロダイセクション用のマーキングは不要です。
- ・標本の選択および作成がご施設で困難な場合や未染色スライドの上記枚数ご提供が困難な場合には、地域連携予約時にその旨お伝えください

<注意事項>

- ・やむをえなくブロック検体での提出となった際は、検査完了報告までの預かりとなるため、2~3か月は返却不可になりますのでご了承願います。

2025年1月31日改定